

第187回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 【丸数字は予想配点、合計 40 点】

	正誤	理 由	
1.	○		④
		【企業会計原則注解 5】	
2.	×	部分的取替に要する費用を収益的支出として処理する方法を採用することが できる。 【企業会計原則注解 20、連続意見書第三 第一 七】	④
3.	×	成果の確実性が工事収益総額、工事原価総額、決算日における工事進捗度の3つが信頼性を もって見積ることができる場合に認められる。 【工事契約に関する会計基準 9 項】	④
4.	○		④
		【金融商品に関する会計基準 7 項】	
5.	○		④
		【税効果会計に係る会計基準第二 一 2. (2)】	
6.	×	退職時から現在までの平均的な期間以内の一定の年数で按分した額を毎期 費用処理する。 【退職給付に関する会計基準 24 項】	④
7.	×	著しい改良に要した費用は研究開発費として処理する。 【研究開発費等に係る会計基準四 2】	④
8.	×	自己株式の取得に関する付随費用は、損益計算書の営業外費用の計上する。 【自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準 14 項】	④
9.	○		④
		【企業結合に関する会計基準 26 項】	
10.	○		④
		【連結財務諸表に関する会計基準 38 項】	

問題 2 [丸数字は予想配点、合計 30 点]

問 1	用語	
	(a)	② 財政状態
	(b)	② 利害関係者
	(c)	② 正規の簿記

問 1	用語	
	(d)	② 簿外
	(e)	② 総額
	(f)	② 流動性配列法

問 2

貸借対照表において債権・債務のバランス及び企業規模を明示することで財政状態を明らかにする必要があるため。	⑧
--	---

問 3

(1)	繰延資産	②
(2)	期間損益計算の適正化の見地から、費用収益対応の原則に基づき、当期の支出額を将来の収益に対応させ、将来の費用として繰延経理を行うため、貸借対照表に資産計上が認められる。	⑧

問題 3 選択肢：(ア) 増加する (イ) 減少する (ウ) 変わらない [丸数字は予想配点、合計 30 点]

		解答
(1)	① 売上原価の金額	⑤ (ア)
	② 期末商品棚卸高	⑤ (イ)
(2)	① 有価証券評価損の金額	⑤ (イ)
	② その他有価証券の金額	⑤ (ウ)
(3)	① 減価償却費の金額	⑤ (イ)
	② 備品の帳簿価額	⑤ (ア)